

新産業廃棄物最終処分場整備事業 環境影響評価準備書の概要について

令和6年8月7日(水)

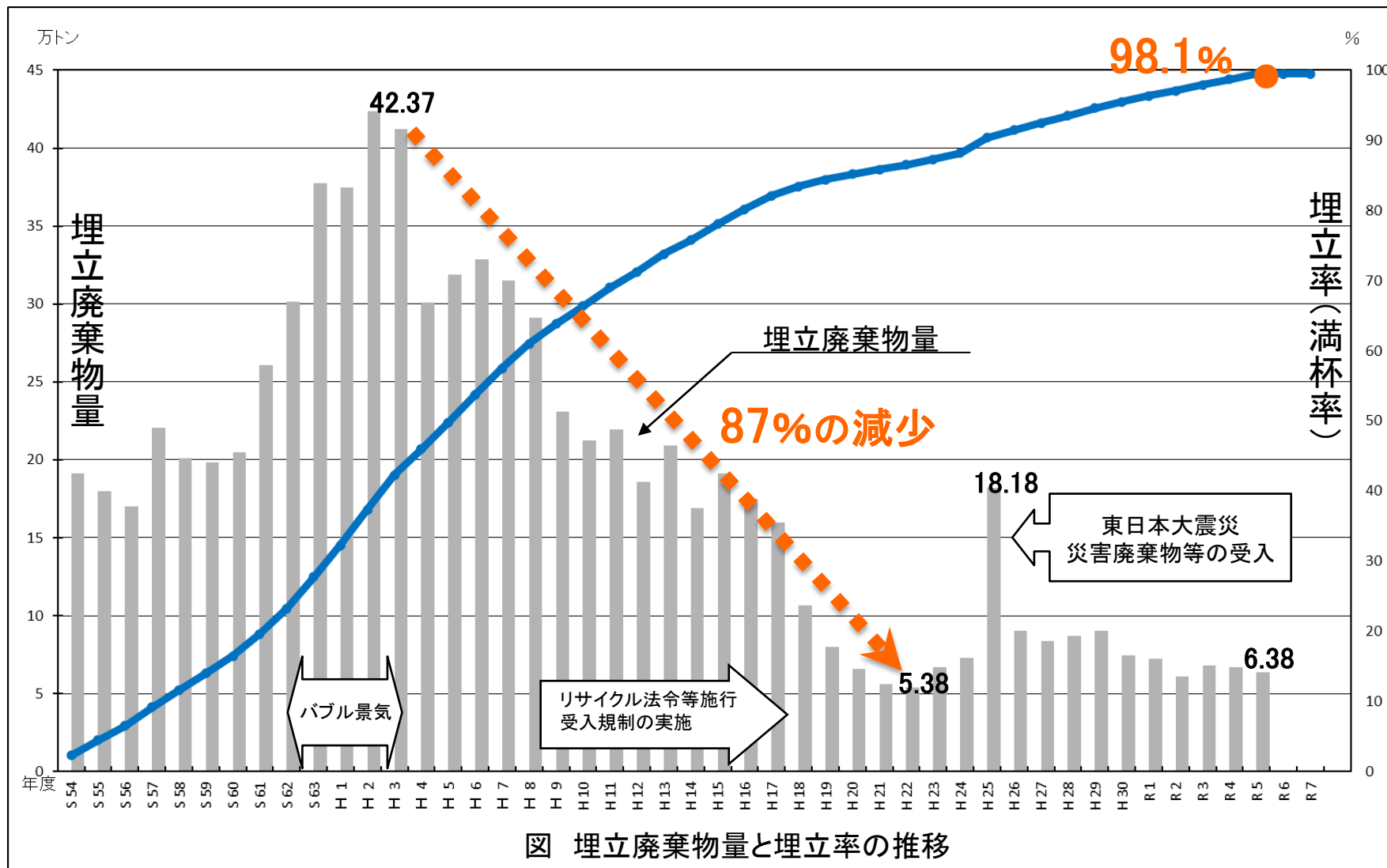
公益財団法人 宮城県環境事業公社

説明項目

- 1 クリーンプラザみやぎの現状
- 2 対象事業実施区域の位置
- 3 対象事業の規模等
- 4 環境影響評価選定項目
- 5 環境調査の工程
- 6 環境調査の結果、予測及び評価の概要
- 7 事後調査について
- 8 現処分場における取組（水質調査）
- 9 新処分場供用後のモニタリング調査までのフロー
- 10 現処分場の参考値（騒音・臭気調査）
- 11 環境影響評価の総合的な評価

1. クリーンプラザみやぎの現状

昭和54年度に埋立を開始した現在の最終処分場「クリーンプラザみやぎ」は、今年で45年目を迎え、令和5年度末現在の埋立率は98.1%と非常に逼迫した状況となっております。



2. 対象事業実施区域の位置



図 対象事業実施区域の位置（広域）

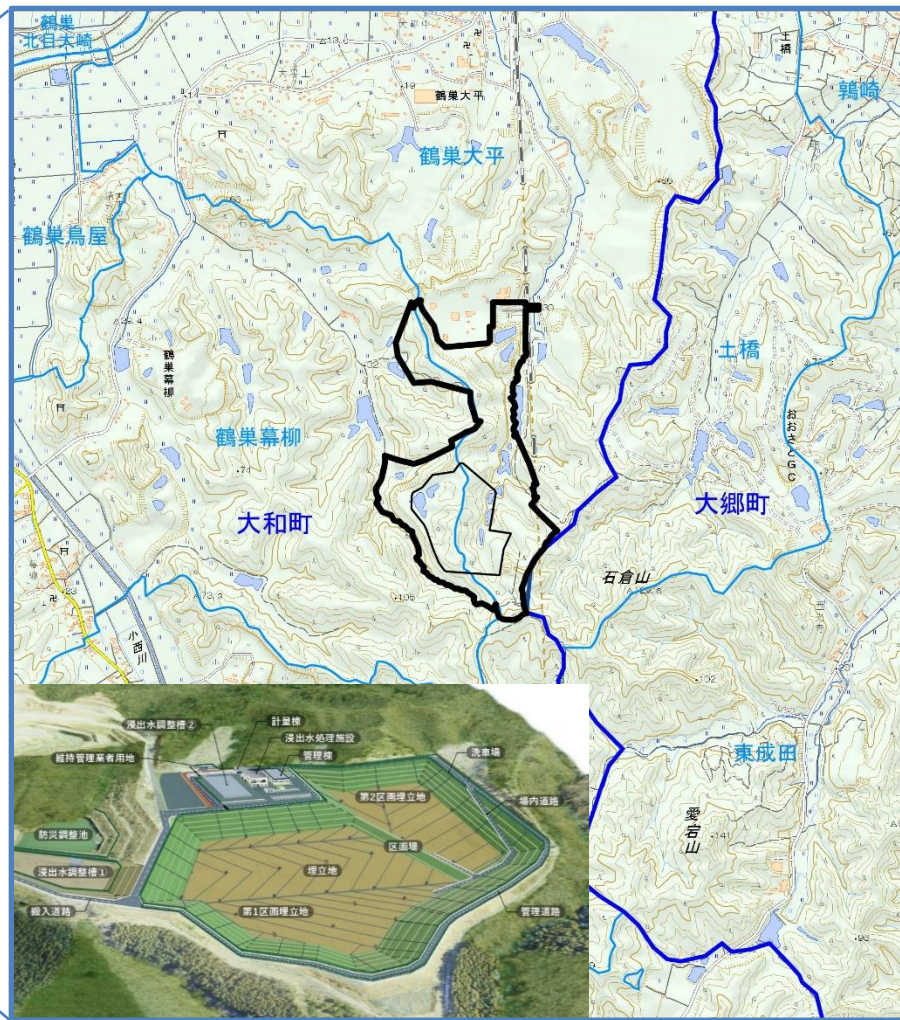


図 対象事業実施区域の位置

3. 対象事業の規模等

項 目	内 容
計画施設の種類	産業廃棄物最終処分場(管理型)
処理能力	敷地面積(対象事業実施区域) : 約58.65 ha 埋立面積 : 約13.28 ha 埋立容量 : 約230万 m ³
廃棄物運搬車両	125台/日(現処分場の令和元年度搬入実績を参考) 【内訳】大型車(10t以上) : 22台/日 中型車(4t以上10t未満) : 74台/日 小型車(4t未満) : 29台/日
産業廃棄物の種類	<産業廃棄物> ①燃え殻, ②汚泥, ③廃プラスチック類, ④ゴムくず, ⑤金属くず, ⑥ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず, ⑦鋳さい, ⑧がれき類, ⑨紙くず, ⑩木くず, ⑪繊維くず, ⑫ばいじん(集じん施設により集められたもの) 以上 12種類 <特別管理産業廃棄物> ①廃石綿等 以上 1種類
処理方式	準好気性埋立構造(サンドイッチ方式)
水処理方法	アルカリ凝集沈殿, 生物処理, 凝集沈殿
処理水放流先	公共下水道
着工予定	令和6年12月
供用開始予定	令和9年度
埋立期間	20年間

4. 環境影響評価の選定項目

環境要素の区分				影響要因の区分	工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用		
					最 終 設 置 場 の 工 事	最 終 存 在 場	施 設 の 立 地	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	窒素酸化物	○			○	
			浮遊粒子状物質	○			○	
			粉じん等	○			○	
			騒音・低周波音	○			○	
			振動	○			○	
	水環境	水質	悪臭				○	
			土砂等による水の濁り	○			○	
			水の汚れ		×		×	
			有害物質	○			×	
			地下水の水質、水位及び流れ				×	
	土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	有害物質				×	
			地下水の流れ	○	○			
重要な地形及び地質			×	×		×		
地盤の安定性				○		×		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素生態系	動物	土壌汚染	○			○		
		重要な種及び注目すべき生息地	○	○		○		
		植物		○		×		
		生態系	重要な種及び群落	○	○		×	
			地域を特徴づける生態系	○	○		○	
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源、主要な眺望景観並びに主要な開視景観		○				
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○	×		○		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物	○					
		温室効果ガス等	○			○		
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量	放射線の量	○			○		

注1) ○は選定した項目であること、×は選定しなかった項目で注1)または注2)に該当する項目であること、空欄は選定しなかった項目で注1)または注2)に該当しない項目であることを示します。

注2) は、「環境影響評価技術指針」(平成11年、宮城県告示第119号)別表第十参考項目において、影響要因により影響を受けるおそれがあるとされている環境要素であることを示します。

注3) は、「廃棄物の最終処分場事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」(平成10年、厚生省令第61号)別表第一参考項目において、影響要因により影響を受けるおそれがあるとされている環境要素であることを示します。なお、参考項目における影響要因の区分「建設機械の稼働」、「資材、機械及び建設工事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行」、「造成等の施工」は「最終処分場の設置の工事」に集約、「埋立・覆土用機械の稼働」、「浸出液処理施設の稼働」、「廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行」、「浸出液処理水の排出」は「廃棄物の埋立て」に集約して示します。

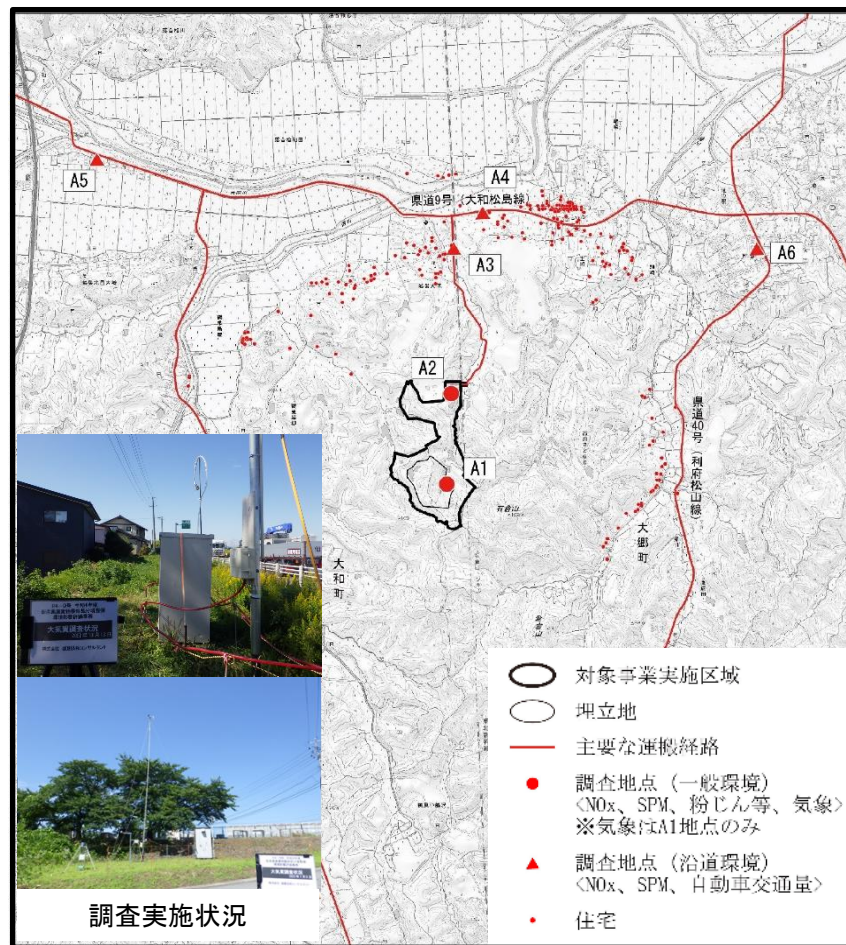
5. 環境調査の工程

環境調査は以下のとおり実施いたしました。

項 目	令和5年												令和6年						備考			
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
気象の状況				●													●					対象事業実施区域内 1箇所連続1年間
大気質			●													●						粉じん等:対象事業実施区域内2箇所4回 NO2,NOX,SPM:対象事業実施区域内6箇所4回 春・夏・秋・冬季
騒音・振動（交通量）											●	●							騒音の状況・振動の状況:対象事業実施区域内6箇所1回(24hr) 秋季 地表面の状況:対象事業実施区域内及び周辺 1回 秋季 地盤の状況(地盤卓越振動数):運搬経路沿道4箇所 1回 秋季 自動車交通量:4箇所 1回(24hr) 秋季			
悪臭（臭気指数）				●	●		●	●		●	●	●	●						対象事業実施区域内2箇所(風上、風下), 4回 春 夏 秋 冬			
水質								●					●						浮遊物質量の状況、流況、有害物質濃度の状況:6箇所 降雨時 1回浮遊物質の沈降の状況:対象事業実施区域内2箇所 任意の時期に1回			
地下水の水質、水位及び流れ			●													●				地下水(地下水位、流向)の状況、 地形・地質の状況、地下水の利用の状況		
地形及び地質			●			●													地形、地質及び地盤の状況			
土壤汚染								●					●						対象事業実施区域内 2箇所 任意の時期に1回			
動物			●													●				対象事業実施区域の周囲約250mの範囲 項目毎に1年の中で適宜実施		
希少猛禽類	●												●						行動圏調査は、令和4年1月～令和5年8月まで2繁殖期に実施。 営巣場所調査は、令和4年及び令和5年の2回実施。			
植物			●													●				対象事業実施区域の周囲約250mの範囲 植物相の状況:4回 春・初夏・夏・秋季 植生の状況:1回 夏季		
生態系			●													●				項目毎に1年の中で適宜実施		
景観							●	●					●	●					落葉期、展葉期の2回 主要な眺望点の9箇所			
人と自然との触れ合いの活動の場				●													●				6箇所 4回 春・夏・秋・冬	
放射線の量				●													●				項目毎に1年の中で適宜実施	

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(1) 大気質



大気質調査地点位置図

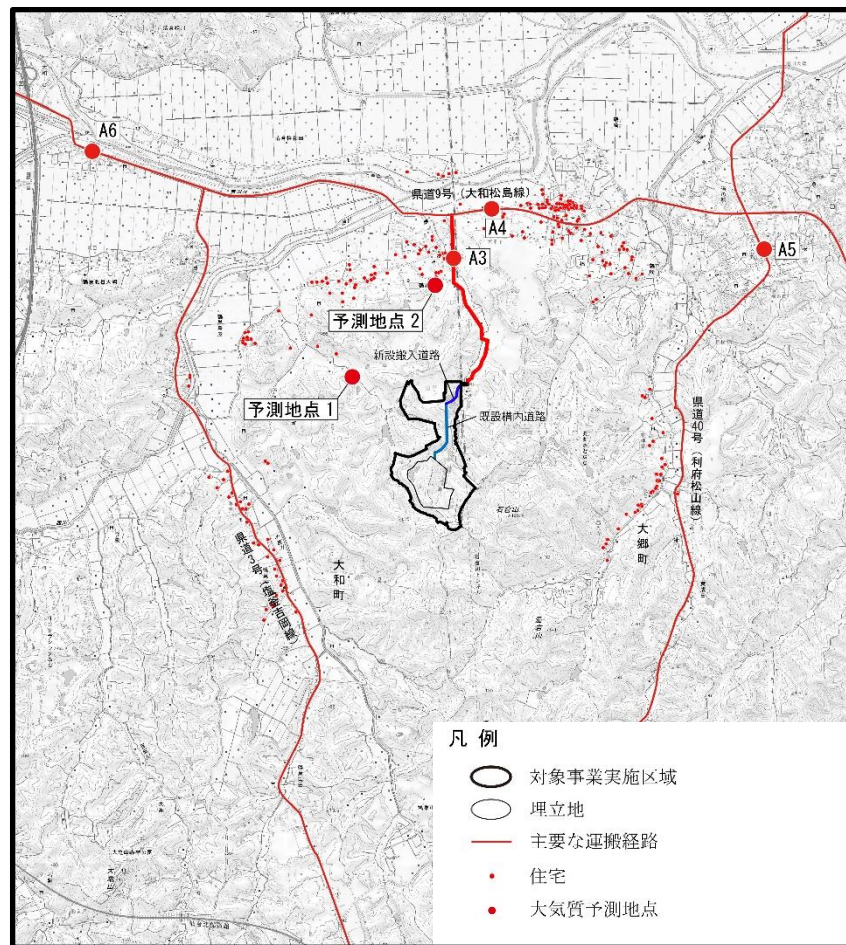
1) 調査結果

地点	二酸化窒素	SPM	粉じん等
	日平均値の最高値 (ppm)	日平均値の最高値 (mg/m ³)	降下ばいじん量 (t/km ² /月)
A1	0.003～0.004	0.017～0.030	0.3～5.6
A2	0.004～0.005	0.017～0.030	1.9～3.6
A3	0.004～0.010	0.018～0.032	—
A4	0.005～0.010	0.020～0.029	—
A5	0.009～0.012	0.014～0.030	—
A6	0.007～0.016	0.016～0.031	—
環境基準又は参考値	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下	1時間値の1日平均値が0.10 (mg/m ³) 以下でありかつ、1時間値0.20mg/m ³ 以下	10 (t/km ² /月) ※道路環境影響評価の技術手法より

○ いずれの地点も、環境基準を下回りました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

2) 予測



大気質予測地点位置図

【最終処分場の設置の工事：建設機械の稼働】

○二酸化窒素 (単位:ppm)

予測地点	寄与濃度	BG濃度	日平均値の年間98%値	環境基準
1	0.00029	0.005	0.0140	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
2	0.00009		0.0135	

○浮遊粒子状物質 (単位:mg/m³)

予測地点	寄与濃度	BG濃度	日平均値の年間2%除外値	環境基準
1	0.00001	0.014	0.0332	1時間値の1日平均値が0.10(mg/m ³)以下
2	0.00000		0.0332	

○降下ばいじん (単位:t/km²/月)

予測地点	春季	夏季	秋季	冬季	参考値
1	0.066	0.131	0.080	0.029	10
2	0.084	0.089	0.049	0.018	

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

【最終処分場の設置の工事

: 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行】

○二酸化窒素 (単位:ppm)

予測地点	寄与濃度		BG濃度	日平均値の年間98%値	環境基準
	将来交通	工事車両			
A3	0.00035	0.00025	0.005	0.0148	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
A4	0.00117	0.00008		0.0164	
A5	0.00232	0.00011		0.0194	
A6	0.00112	0.00011		0.0164	

○浮遊粒子状物質 (単位:mg/m³)

予測地点	寄与濃度		BG濃度	日平均値の年間2%除外値	環境基準
	将来交通	工事車両			
A3	0.00001	0.00000	0.014	0.0332	1時間値の1日平均値が0.10 (mg/m ³) 以下
A4	0.00003	0.00000		0.0333	
A5	0.00008	0.00000		0.0334	
A6	0.00003	0.00000		0.0333	

【廃棄物の埋立て: 埋立・覆土用機械の稼働】

○二酸化窒素 (単位:ppm)

予測地点	寄与濃度	BG濃度	日平均値の年間98%値	環境基準
1	0.00010	0.005	0.0135	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
2	0.00003		0.0133	

○浮遊粒子状物質 (単位:mg/m³)

予測地点	寄与濃度	BG濃度	日平均値の年間2%除外値	環境基準
1	0.00000	0.014	0.0332	1時間値の1日平均値が0.10 (mg/m ³) 以下
2	0.00000		0.0332	

○降下ばいじん (単位:t/km²/月)

予測地点	春季	夏季	秋季	冬季	参考値
1	0.030	0.060	0.036	0.013	10
2	0.015	0.014	0.008	0.003	

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

【廃棄物の埋立て

: 廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行】

○二酸化窒素（単位:ppm）

予測地点	寄与濃度		BG濃度	日平均値の年間98%値	環境基準
	将来交通	工事車両			
A3	0.00035	0.00019	0.005	0.0146	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
A4	0.00117	0.00007		0.0164	
A5	0.00232	0.00008		0.0194	
A6	0.00112	0.00009		0.0163	

○浮遊粒子状物質（単位:mg/m³）

予測地点	寄与濃度		BG濃度	日平均値の年間2%除外値	環境基準
	将来交通	工事車両			
A3	0.00001	0.00000	0.014	0.0332	1時間値の1日平均値が0.10(mg/m ³)以下
A4	0.00003	0.00000		0.0333	
A5	0.00008	0.00000		0.0334	
A6	0.00003	0.00000		0.0333	

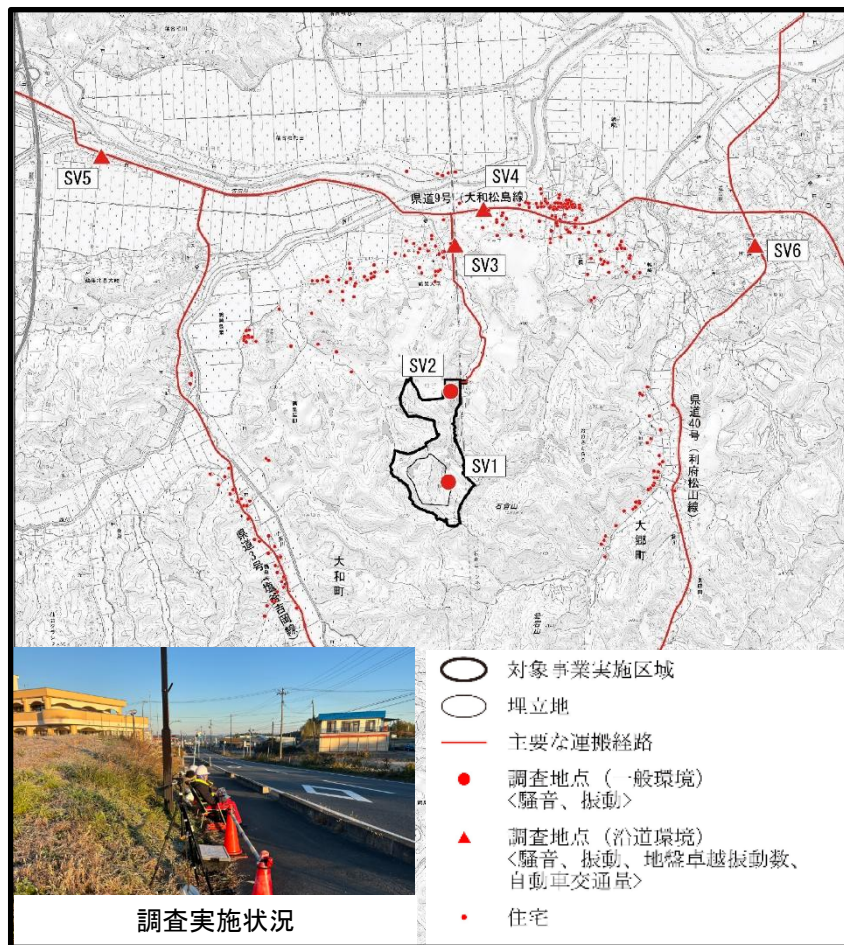
3) 評価

	回避低減に係る評価	基準や目標との整合性に係る評価
【最終処分場の設置の工事】		
建設機械の稼働	○	○
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	○	○
【廃棄物の埋立て】		
埋立・覆土用機械の稼働	○	○
廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	○	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されている、基準等との整合が図られていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(2) 騒音



騒音調査地点位置図

1) 調査結果

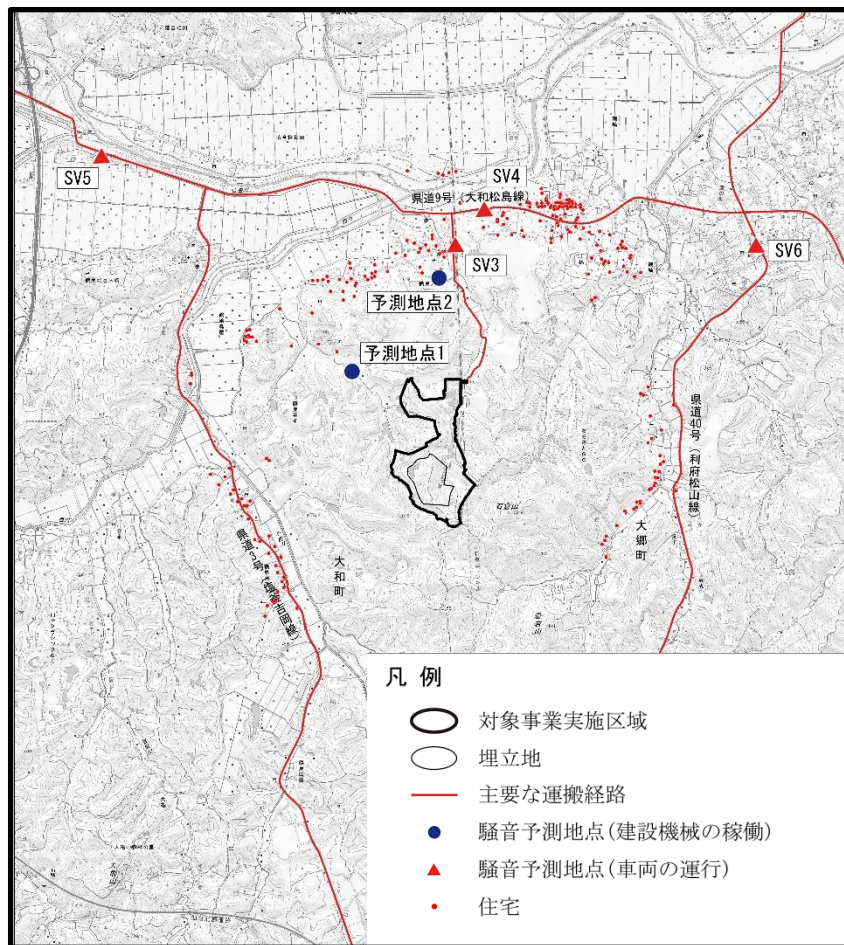
○騒音レベル (単位: dB)

地点	区分	時間区分	L_{Aeq}	環境基準	要請限度
SV1	平日	昼間	38	60	—
		夜間	32	50	—
SV2		昼間	44	60	—
		夜間	40	50	—
SV3		昼間	62	65	75
		夜間	56	60	70
SV4		昼間	73	70	75
		夜間	66	65	70
SV5		昼間	73	70	75
		夜間	71	65	70
SV6		昼間	68	70	75
		夜間	62	65	70

○ 道路交通騒音は県道で調査した2地点で参考とした環境基準を超えました。また、地点SV5の夜間で要請限度を超えました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

2) 予測



騒音予測地点位置図

【最終処分場の設置の工事:建設機械の稼働】

○時間率騒音レベル (単位:dB)

予測地点	予測結果	規制基準 ※
敷地境界での 最大値出現地点	67.5	85以下

※:騒音規制法 特定建設作業騒音に係る基準。

○等価騒音レベル (単位:dB)

予測地点	稼働による騒音	現況騒音	将来騒音	環境基準
1	47.3	43.6	49	60
2	43.8	43.6	47	

【最終処分場の設置の工事

:資材及び機械の運搬に用いる車両の運行】 (単位:dB)

予測地点	現況騒音	騒音レベル 増加分	工事中の 騒音 (評価値)	環境基準	要請 限度
SV3	62.4	2.6	65	65	75
SV4	72.9	0.1	73	70	75
SV5	73.4	<0.1	73	70	75
SV6	68.3	0.2	69	70	75

○ 道路交通騒音は県道で調査した2地点で参考とした環境基準を超えました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

【廃棄物の埋立て：埋立・覆土用機械の稼働】

①埋立・覆土用機械の稼働（単位：dB）

予測地点	L_{A5}	L_{Aeq}	環境基準 ※
敷地境界での 最大値出現地点	55.9	52.3	85 ※1 60 ※2
1	43.6	35.0	60 ※2
2	40.1	31.5	

※：1騒音規制法の特定作業騒音に係る基準。

※：2特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準。

②水処理施設の稼働（単位：dB）

予測地点	水処理施設の稼働による騒音	環境基準 ※1
敷地境界での 最大値出現地点	16.0	50
1	<0 ※2	
2	<0 ※2	

※1：特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準。

※2：「<0」は予測値が極めて小さいことを示します。

①+②（単位：dB）

予測地点	時間帯	現況騒音 (SV2)	将来騒音	環境基準※
1	昼間	44	44.5	60
	夜間	40	40.1	50
2	昼間	44	44.2	60
	夜間	40	40.1	50

※：特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準。

【廃棄物の埋立て

：廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行】（単位：dB）

予測地点	現況騒音	騒音 レベル 増加分	供用後の 騒音 (評価値)	環境 基準	要請 限度
SV3	62.4	2.1	65	65	75
SV4	72.9	0.1	73	70	75
SV5	73.4	0.1	73	70	75
SV6	68.3	0.2	68	70	75

○ 道路交通騒音は県道で調査した2地点で参考とした環境基準を超えました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

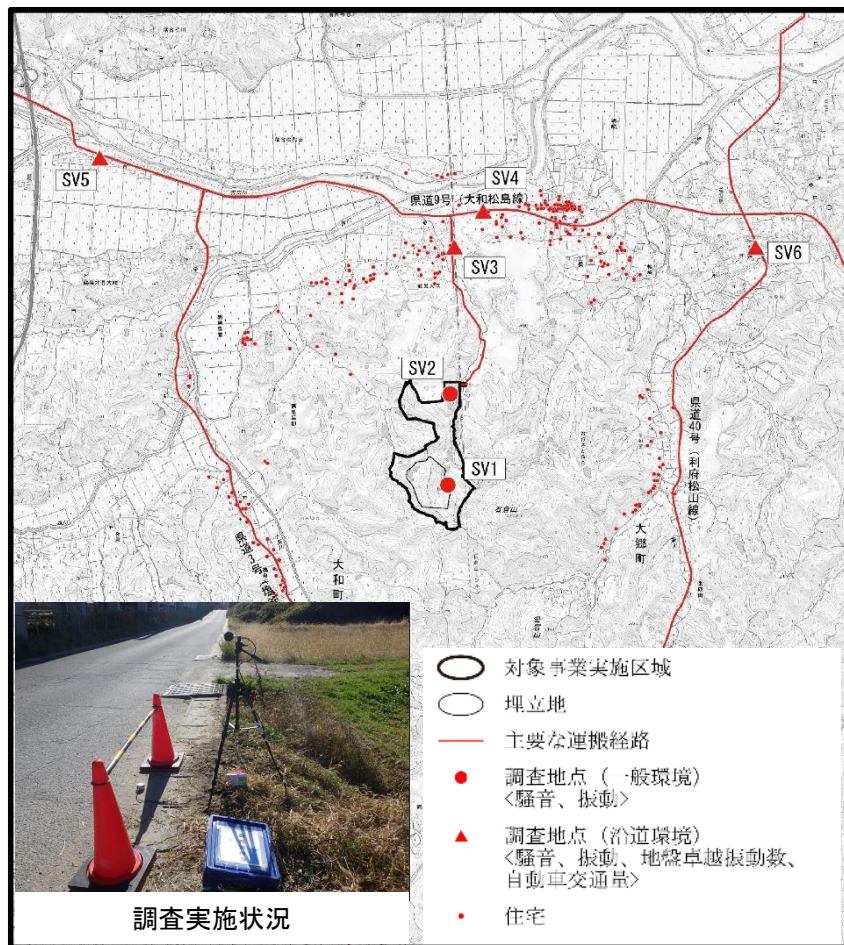
3) 評価

	回避低減に係る評価	基準や目標との整合性に係る評価
【最終処分場の設置の工事】		
建設機械の稼働	○	○
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	○	○
【廃棄物の埋立て】		
埋立・覆土用機械の稼働	○	○
廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	○	○

- 実行可能な範囲で回避低減されている、基準等との整合が図られていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(3) 振動



振動調査地点位置図

1) 調査結果

○ 振動レベル (単位: dB)

地点	区分	時間区分	L ₁₀	要請限度 ※1
SV1	平日	昼間	25	—
		夜間	<25 ※2	—
SV2		昼間	29	—
		夜間	26	—
SV3		昼間	34	70
		夜間	27	65
SV4		昼間	45	70
		夜間	33	65
SV5		昼間	54	70
		夜間	45	65
SV6		昼間	46	70
		夜間	31	65

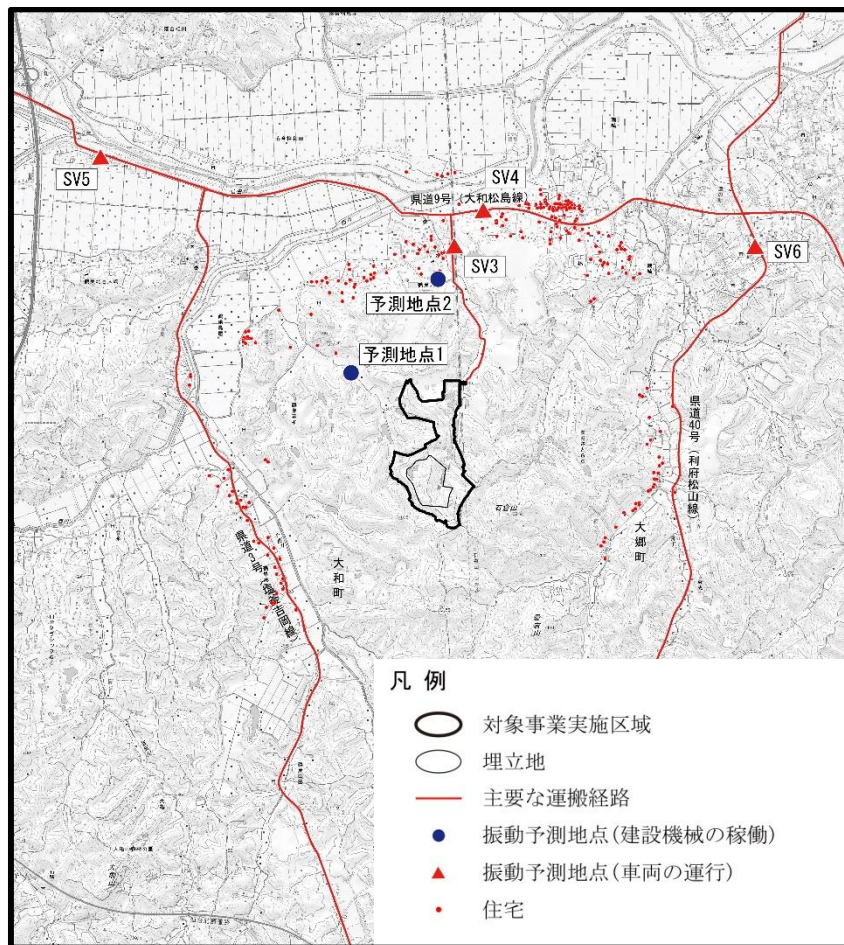
※1: 用途地域の指定がないため、参考として第二種区域を当てはめました。

※2: 「<25」は振動レベルが25dB未満であることを示す。

○ 道路交通振動は、いずれも要請限度を満足していました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

2) 予測



振動予測地点位置図

【最終処分場の設置の工事:建設機械の稼働】

○敷地境界での振動レベル (単位: dB)

予測地点	予測結果	規制基準 ※
敷地境界での 最大値出現地点	52.3	75以下

※:振動規制法 特定建設作業騒音に係る基準。

○周辺住居等での振動レベル (単位: dB)

予測地点	稼働による振動	参考値(感覚閾値)	
1	-51.0 ※	55	「新・公害防止技術と法規 2012-騒音・振動編-」(社団法人 産業環境管理協会)による。
2	-80.2 ※		

※:値が負となっているのは、影響が極めて小さいことを示します。

【最終処分場の設置の工事

:資材及び機械の運搬に用いる車両の運行】 (単位: dB)

予測地点	現況振動	振動レベル 増加分	工事中の 振動 (評価値)	要請 限度 ※
SV3	43.3	3.3	47	65
SV4	48.4	0.2	49	65
SV5	56.6	<0.1	57	65
SV6	49.1	0.3	49	65

※:用途地域の指定がないため、参考として第二種区域を当てはめました。

○ 道路環境振動は参考とした要請限度を満足しました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

【廃棄物の埋立て：埋立・覆土用機械の稼働】

①埋立・覆土用機械の稼働（単位：dB）

予測地点	L ₁₀	基準値 ※2	参考値 ※3
敷地境界での最大値出現地点	58.9	75	—
1	-35.7 ※1	—	55
2	-76.6 ※1		

- ※1：値が負となっているのは、影響が極めて小さいことを示します。
 ※2：「新・公害防止技術と法規2012-騒音・振動編-」（社団法人産業環境管理協会）による感覚閾値。
 ※3：特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準。

②水処理施設の稼働（単位：dB）

予測地点	L ₁₀	基準値 ※2	参考値 ※3
敷地境界での最大値出現地点	35.3	60	—
1	-92.3 ※1	—	55
2	-143.2 ※1		

- ※1：値が負となっているのは、影響が極めて小さいことを示します。
 ※2：特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準。
 ※3：「新・公害防止技術と法規2012-騒音・振動編-」（社団法人産業環境管理協会）による感覚閾値。

①+② は、上記の表に示した結果から、周辺住居等においては現況から変化しないものと予測します。

【廃棄物の埋立て

：廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行】（単位：dB）

予測地点	現況振動	振動レベル増加分	供用後の振動（評価値）	要請限度 ※
SV3	43.3	3.5	47	70
SV4	48.4	0.2	49	70
SV5	56.6	0.1	57	70
SV6	49.1	0.3	49	70

※：用途地域の指定がないため、参考として第二種区域を当てはめました。

○ 道路環境振動は参考とした環境基準を満足しました。

3) 評価

	回避低減に係る評価	基準や目標との整合性に係る評価
【最終処分場の設置の工事】		
建設機械の稼働	○	○
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	○	○
【廃棄物の埋立て】		
埋立・覆土用機械の稼働	○	○
廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	○	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されている、基準等との整合が図られていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(4) 悪臭



悪臭調査地点位置図

1) 調査結果

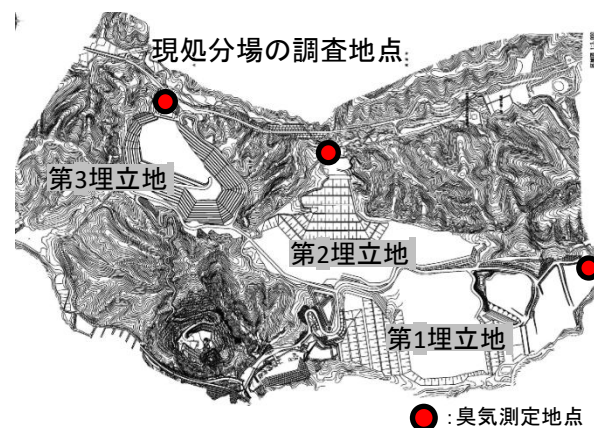
○臭気指数

地点	春季	夏季	秋季	冬季	基準値 (参考値)
S1	10未満	10未満	12	10未満	15 ※
S2	10未満	10未満	12	10未満	

※: 悪臭防止法による敷地境界線における規制基準ですが、適用対象外のため参考値として扱いました。

2) 予測

現処分場において、臭気指数は10未満(令和5年度調査)となっており、埋立面積や埋立容量が現処分場より小さいことから本事業においても、基準値を下回るものと予測しました。



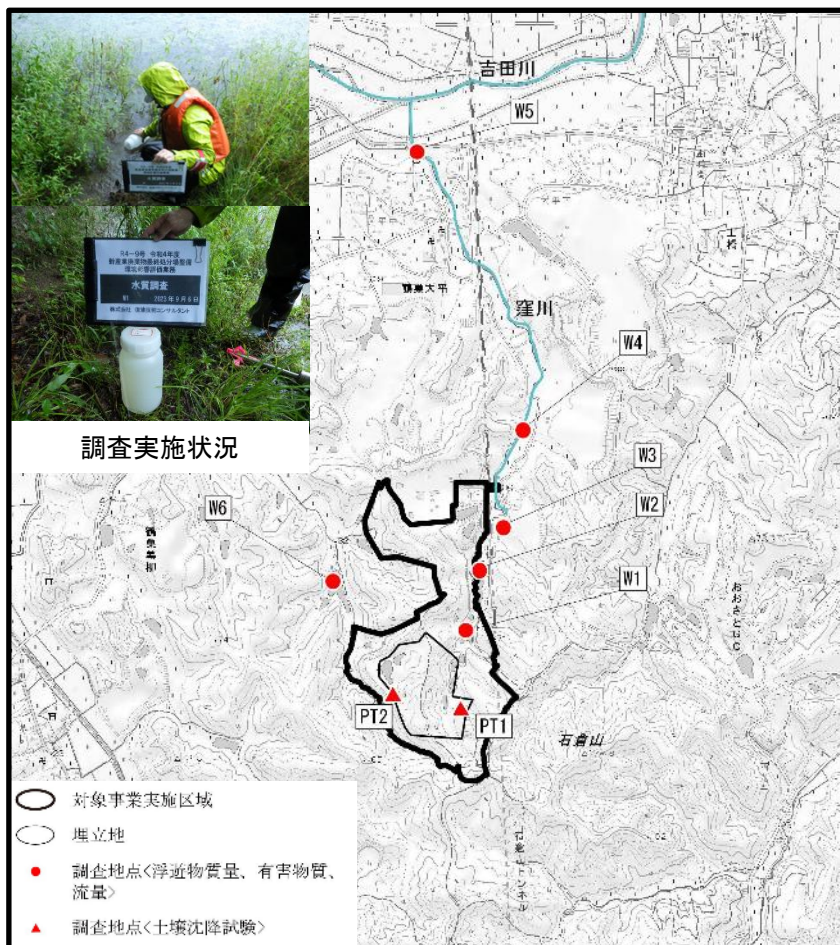
3) 評価

	回避低減に係る評価
【廃棄物の埋立て】	
埋立・覆土用機械の稼働	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(5) 水質(水の濁り)



水質調査地点位置図

1) 調査結果

【浮遊粒子状物質(5回採取)】

(単位:mg/L)

調査地点	浮遊粒子状物質	平均	環境基準 ※
W1	1～47	12	25以下
W2	100～140	122	
W3	17～27	21	
W4	22～81	42	
W5	97～320	215	
W6	27～33	29	

※: 吉田川下流域の指定類型(B)による。

2) 予測

工事中及び供用後共、環境保全措置により場内にて土砂を沈降させたうえでW1を介して下流へ放流する計画としていることから、周辺の水環境への影響は小さいものと予測しました。

3) 評価

	回避低減に係る評価
【最終処分場の設置の工事】	
造成等の工事による一時的な影響	○
【廃棄物の埋立て】	
埋立・覆土用機械の稼働	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(6) 水質(有害物質)



水質調査地点位置図

1) 調査結果

【有害物質(生活環境項目)11項目】

化学的酸素要求量(COD)、浮遊粒子状物質(SS)、溶存酸素量(DO)、大腸菌群、全窒素(T-N)が全地点で基準値を超えていました。
また、全燐(T-P)がW3以外の5地点で基準値を超えていました。
※基準値: 吉田川下流域の指定類型(B)による。

【有害物質(健康項目)27項目】

○ すべての地点で環境基準を下回りました。

【有害物質(ダイオキシン類)】

○ W5において2.4Pg-TEQ/Lと、環境基準1 Pg-TEQ/Lを超えていました。

ダイオキシン類の由来には、ごみ焼却などの排ガス、野焼き、たばこの煙、自動車排ガス、工業用途に使用されていたPCB製品、除草剤、農薬などの不純物がある

↓
それぞれ組成に特徴がある

↓
比較することで由来を推測(今回の測定結果は農薬由来)

【有害物質(土壌中の有害物質)29項目

+ダイオキシン類】

○ PT1、PT2とも、すべての項目で環境基準を下回りました。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

2) 予測

工事中は各種の環境保全措置を講じることから、水質(有害物質)への影響は小さいものと予測します。

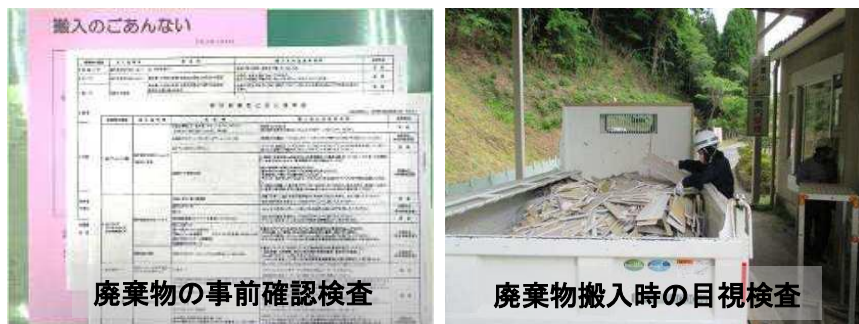
3) 評価

	回避低減に係る評価
【最終処分場設置の工事】	
造成等の工事による一時的な影響	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。

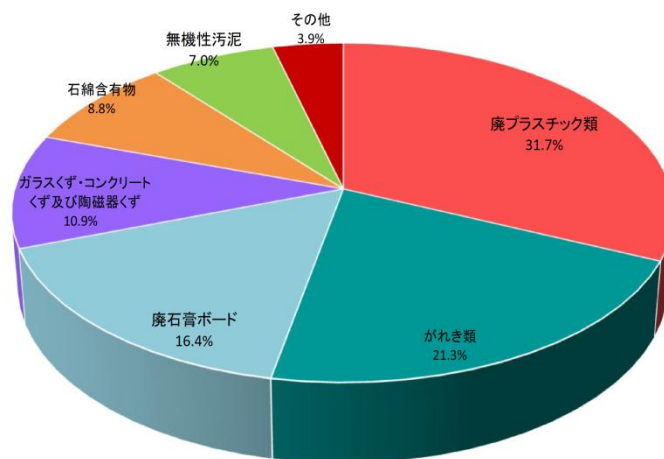
《参考》

供用後は廃棄物の受け入れ品目や性状の確認の徹底をする及び埋立地には遮水シートを設置する等の対策を講じます。



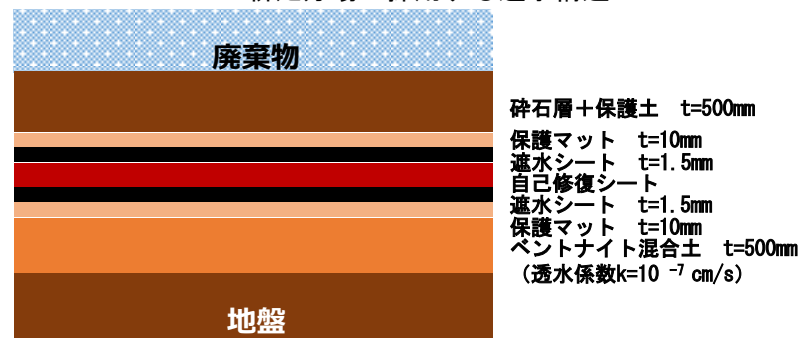
ダイオキシン類を含む恐れのある焼却灰は事前に受け入れ基準を設け、溶出試験及び含有試験を義務づける。

現処分場における
廃棄物処理実績 (令和5年度)



受入廃棄物の70%は、埋立後も性状が変わらない安定廃棄物であり、ダイオキシン類が含まれる可能性がある燃え殻は、全体の1%程度です。

新処分場で採用する遮水構造



複層化(多重安全化)した遮水工を設けることで、浸出水が地下に浸透することを防ぐ。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(7)地下水の水質、水位及び流れ

1) 調査結果

【地下水位】

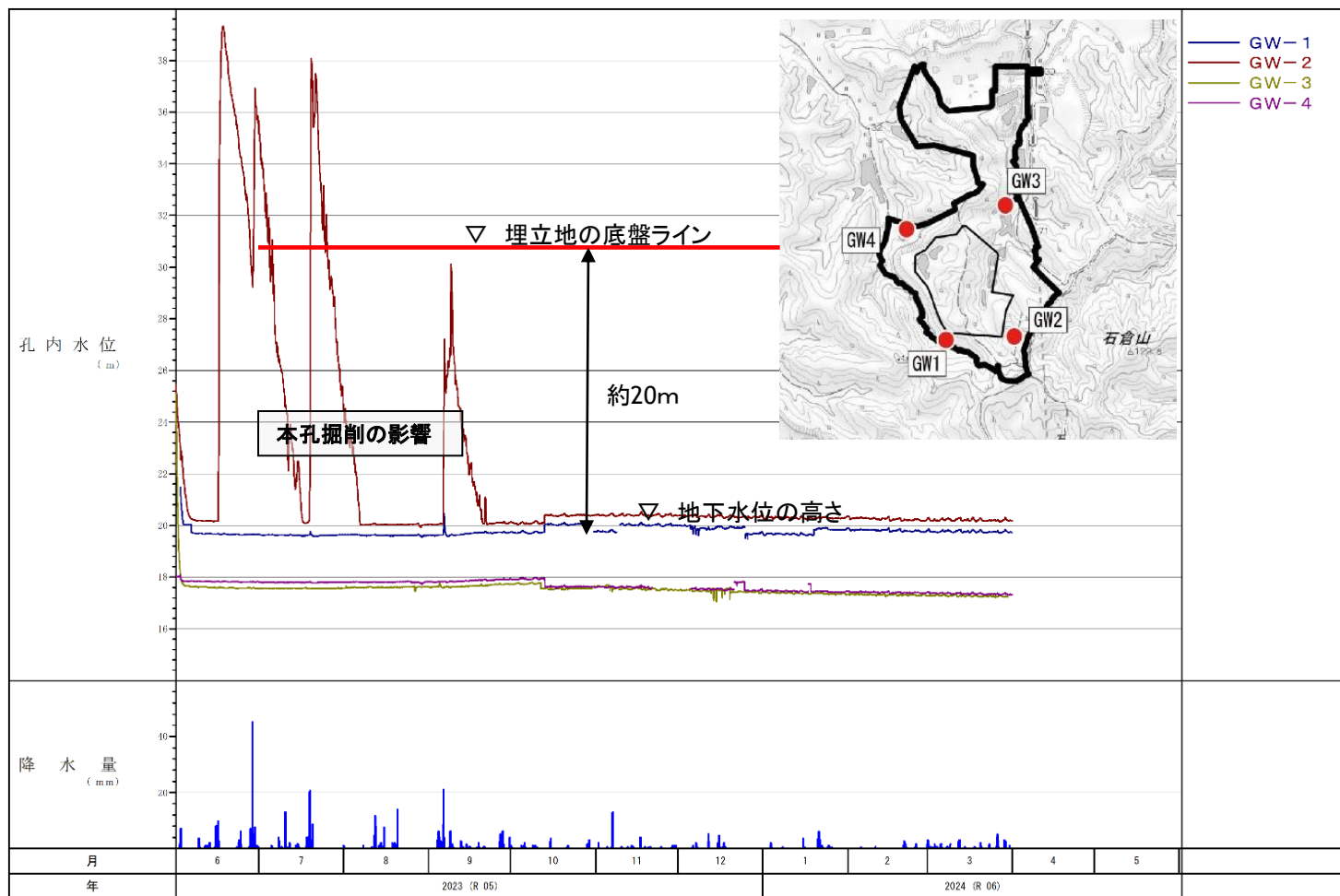
GW-2は本孔掘削の影響がありR5.9月頃までの変動が大きい。すべての地点で、短期的な降雨量との相関は見られませんでした。

地下水位は、上流側のGW-1、GW-2でTP+20m付近、下流側のGW-3、GW-4TP+18m付近でした。

渇水期には全体的に水位が低下する傾向がみられました。

【地下水の流れ】

地下水の流向や流速は規則性は見られませんでした。



6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

2) 予測

【最終処分場の設置の工事

: 造成等の工事による一時的な影響】

事業に係る各種の環境保全措置を講じることから、地下水への影響は小さいものと予測しました。

【最終処分場の存在】

事業に係る各種の環境保全措置を講じ、埋立地以外では雨水浸透を行うなど地下水涵養を図るをことから、地下水への影響は小さいものと予測しました。

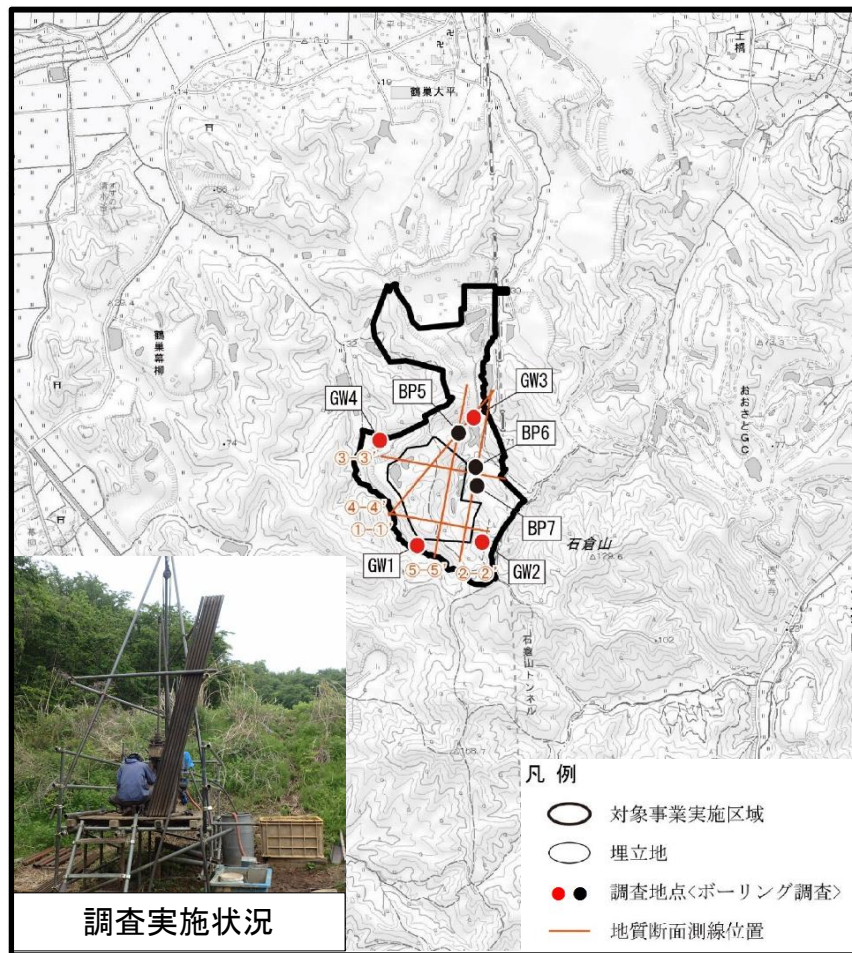
3) 評価

	回避低減に係る評価
【最終処分場の設置の工事】	
造成等の工事による一時的な影響	○
【最終処分場の存在】	
—	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(8) 地形及び地質



地質調査地点位置図

1) 調査結果

- ・地層・土層の分布状況の詳細は明確ではないが、埋土、強風化砂岩が主体となり、深部には風化砂岩が分布すると想定されます。このうち、良好な支持地盤は風化砂岩(N値=50以上)になるが、旧地形図を参考にすると北側に向かって深くなっているなどの変化があると考えられます。
- ・掘削土は、基本的に土砂が主体と判断される。軟岩などの岩盤が深部に部分的に分布しています。
- ・掘削法面の安定勾配は、現況で崩落などの変状もあまり発生していないことから、近傍の現況の法面勾配が目安となります。BP.5で確認されたシルト混じり砂(土砂化した砂岩)や強風化砂岩の場合は、「砂質土の密実でないもの」に相当し、勾配 $n=1:1.5$ 程度(切土高を考慮)と判断されます。

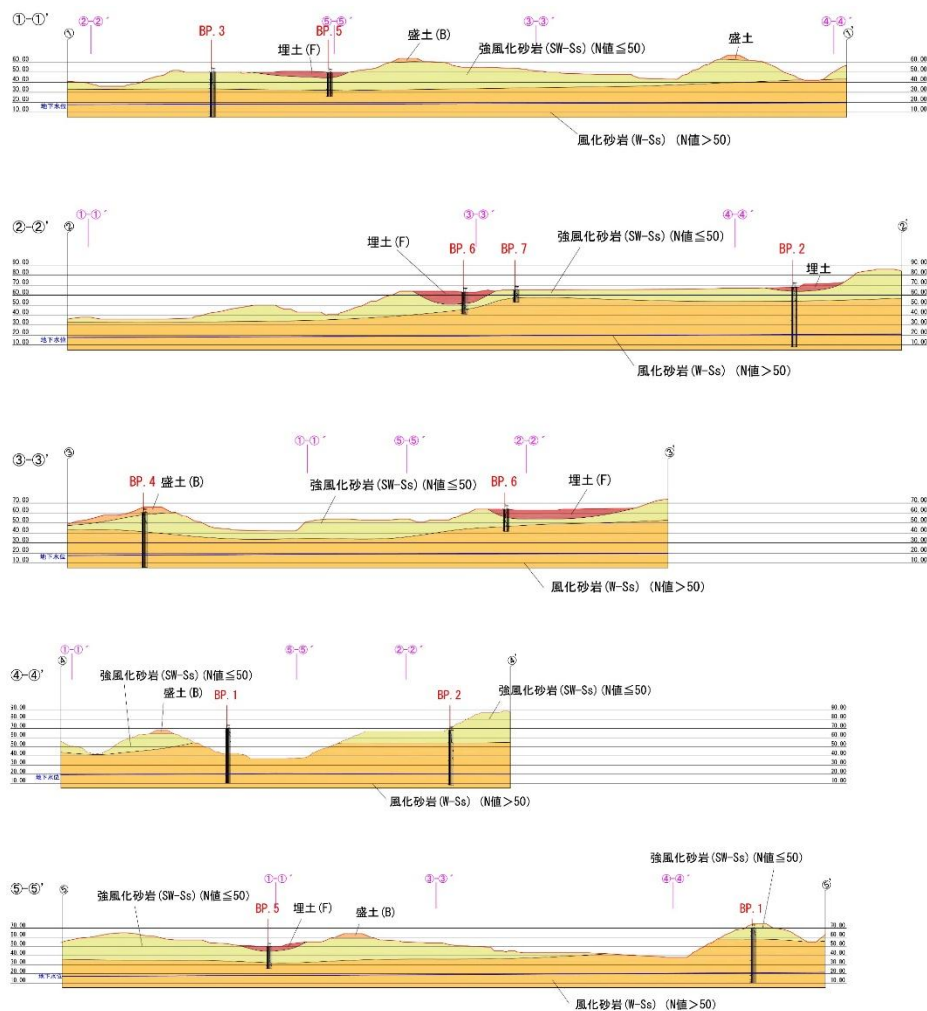
地層構成要約表

			地層 区分	記号	土質 区分	N 値 (平均)	土性等記事
新 生 代	第四紀	現世	盛土	B	—	—	・強風化砂岩や砂岩が盛土材として利用されていると想定される。 ・本調査のボーリングでは確認されていないが、周辺地形よりその存在がうかがえる。
			埋土	F	礫混じり シルト質砂	0～16 (5)	・GW-2 (BP. 2) 及び BP. 6 で確認されるが、BP. 5 付近でも分布の可能性が考えられる。(BP. 5 の深度 5m までは柱状図のコア観察では土砂化した砂岩としているが、埋土の可能性もある) ・細砂～中砂が主体で、強風化砂岩や風化砂岩を材料に埋土されていると想定される。
	新第三紀	中新世	強風化 砂岩	SW-Ss	砂岩 (細砂～中砂)	5～88 (24)	・強風化した細粒～中粒、中粒から粗粒砂岩。 ・DL～DM 級 ^{※1} 岩盤主体で、N 値 50 以下となる。 ・強風化のため指圧で容易に崩すことができる。 ・火山灰層を挟む場合がある。
			風化 砂岩	W-Ss	砂岩 (細砂～中砂)	30～125 (68)	・風化した細粒～中粒、中粒から粗粒砂岩。 ・DH～CL ^{※1} 級岩盤主体で、N 値 50 以上となり非常に締まる。 ・強風化のため指圧で容易に崩すことができる。 ・火山灰層を挟む場合がある。 ・局所に炭化物を挟むことがある。 ・GW-2 (BP. 2) の深部では風化残留核をしばしば挟む。

出典：R4-10 号令和4年度新産業廃棄物最終処分場整備水文調査及び地質調査報告書 令和6年1月
(公財) 宮城県環境事業公社

※1：「応用地質 特別号 岩盤分類」(1984年 日本応用地質学会発行)による分類。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要



想定地質断面図

2) 予測

現在土砂採取場として利用されている現況地形を生かし土地の
改変量最小限とする、法面の洗堀防止などの対策を行うなどの環
境保全措置を講じることから、地盤の安定性への影響は小さいも
のと予測しました。

3) 評価

回避低減に係る評価	
【最終処分場の存在】	
—	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。

6. 環境調査の結果及び予測・評価の概要

(9) 土壌汚染



土壌汚染調査地点位置図

1) 調査結果

【有害物質(土壌中の有害物質)29項目
+ダイオキシン類】

○ SC1、SC2とも、すべての項目で環境基準を下回りました。

2) 予測

【最終処分場の設置の工事

: 造成等の工事による一時的な影響】

事業に係る各種の環境保全措置を講じることから、土壌汚染の影響は小さいものと予測しました。

【最終処分場の存在】

事業に係る各種の環境保全措置を講じることから、土壌汚染の影響は小さいものと予測しました。

3) 評価

回避低減に係る評価	
【最終処分場の設置の工事】	
造成等の工事による一時的な影響	○
【廃棄物の埋立て】	
埋立・覆土用機械の稼働	○

○ 実行可能な範囲で回避低減されていると評価される項目。